

NISA意向調査

結果報告書

2023年4月5日

株式会社NTTデータエービック

金融サービス推進部

NISA意向調査実施概要

令和5年度税制改正大綱によりNISA制度の恒久化等の制度拡充が決定しました。

当社は、この新NISAに対して、一般の国民、特に現状のNISAをまだ利用していない人たちが、この新NISAに対してどのような捉え方をしているかを知るために、NISA意向調査を実施しました。

今回の調査では、特に地域的な特徴を見るために、全国47都道府県を隈なく対象にして調査を実施しました。

調査対象者・ サンプルサイズ

調査対象者：9,400ss

【回答者条件】

全国の15～69歳の男女

47都道府県ごとに、NISA口座での投資経験者を50ss、NISA口座での投資未経験者を150ss回収

※全国集計について2020年国勢調査の結果とスクリーニングデータでの出現率に基づき、ウェイトバック集計を実施

対象者条件	1都道府県あたり サンプル数	47都道府県合計
NISA口座での投資経験者	50	2,350
NISA口座での投資未経験者	150	7,050
合計	200	9,400

調査手法

LINEリサーチ プラットフォーム利用の調査

調査期間

2023年2月15日（水）～2023年2月21日（火）

調査実施機関

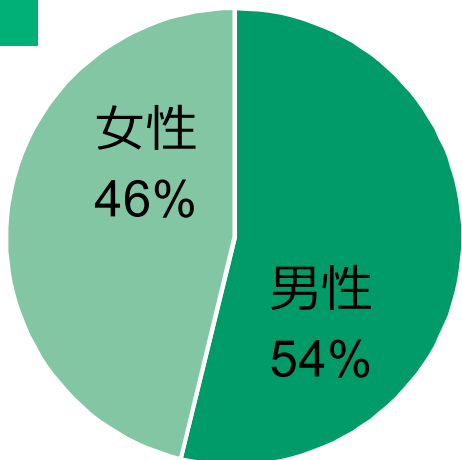
株式会社クロス・マーケティング

回答者プロフィール

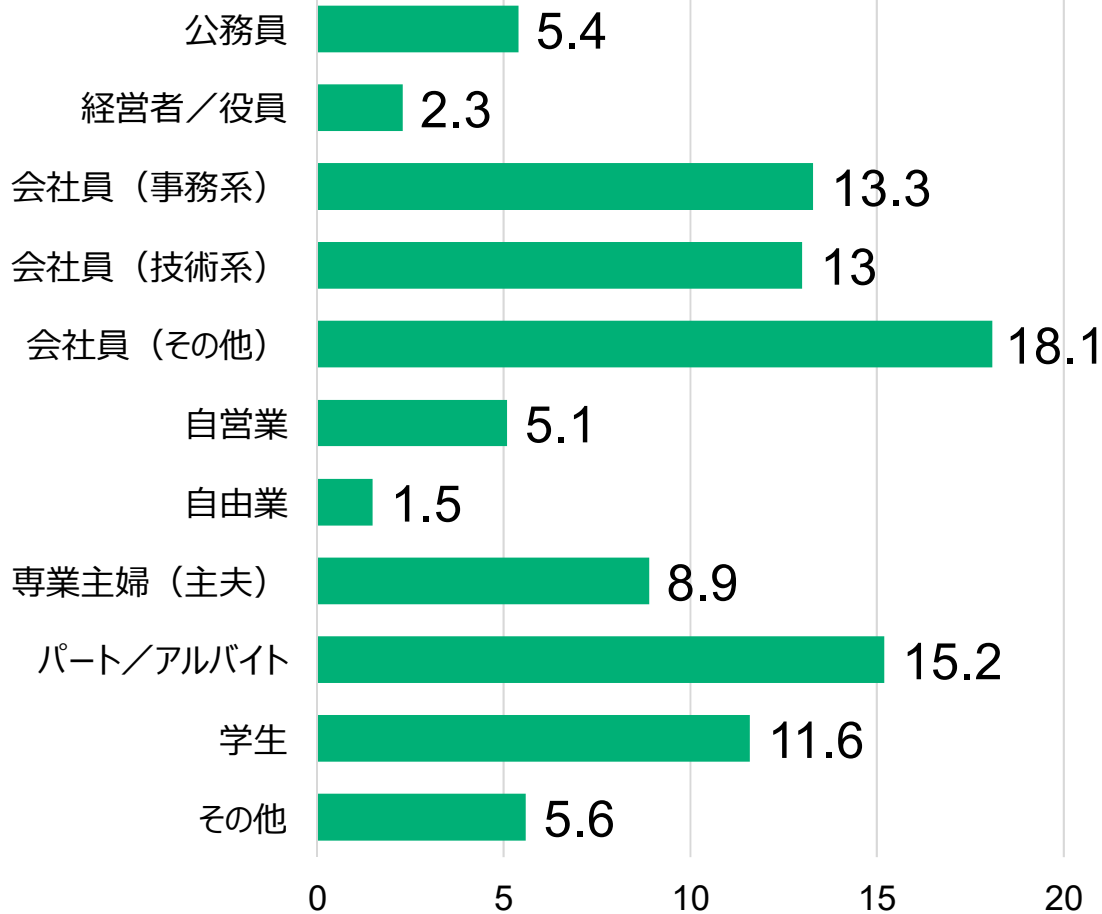
本調査の回答者プロフィールは、以下のとおり、調査媒体としてLINEリサーチを使ったことで、15歳から69歳までの幅広い世代から有意なアンケート結果を回収することができました。

性別

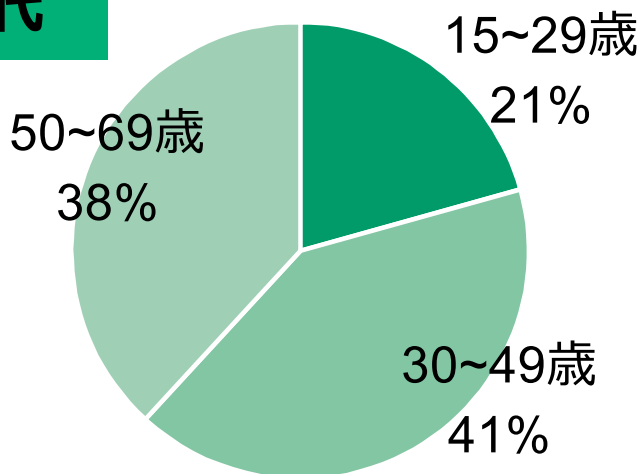
N=9400



職業



年代



結果報告～サマリー

- 現行のNISA制度を利用して既に投資を行っている「現行NISA利用者」は、全国で18%あり、残りの82%は「現行NISA未利用者」でした。
 - 「現行NISA利用者」に、NISAの利用金融機関を尋ねたところ、「ネット証券・ネット銀行」が50%と大半を占めました。「ネット証券・ネット銀行」の利用は、関東、近畿で特に高くなっています。
 - 「現行NISA利用者」のNISA利用金融機関の選定理由は、「オンラインで申込ができるから」「取引手数料が安い」「オンラインサービスが充実」等、「ネット証券・ネット銀行」のメリットがそのまま選定理由の上位を占めました。
- 「現行NISA未利用者」に、2024年から始まる新NISAへの興味を尋ねたところ、未利用者でも約57%が新NISAに何かしらの興味を持っていることが分かりました。
 - 仮に新NISAを始めるとしたら、どの金融機関を選ぶかを尋ねたところ、「ネット証券・ネット銀行」が24%と大きく後退する一方で、「地元の銀行」が21%、「メガバンク」が17%と大きく伸長しました。
 - エリア別に見ると、関東、近畿以外のエリアでは、「ネット証券・ネット銀行」よりも「地元の銀行」の方が高くなっており、地方では「地元の銀行」を選択する可能性が高いことが分かりました。
 - なぜその金融機関を選んだかを尋ねたところ、「日ごろ利用しているから」41%、「店舗やATMが利用しやすい」が21%、「給与振込」が18%と、その金融機関との日ごろの付き合いが選定根拠となっていました。

現行のNISA制度では、非課税期間が期限付きの優遇制度だったこともあり、積極的に口座勧誘を行ったネット証券等が大きくシェアを取っています。

一方、新NISAは、制度拡充がニュース等で話題になったこともあり、現行NISAを利用していない人からも興味・関心をもたれています。特に、新NISAの非課税期間が無期限となり、一生涯利用できる制度となったことから、日ごろよく利用している銀行で、自分の資産形成のために、新NISAを始めようと考えている人がかなり存在することが分かりました。

特に関東、近畿を除くエリアにおいては、新NISAは「地元の銀行」を利用するという回答が多く、「ネット証券等」を利用するという回答を上回っていました。

2023年は、このような一般個人の新NISAへの意向に対して、地域金融機関の積極的な取り組みが求められる年となりそうです。

01

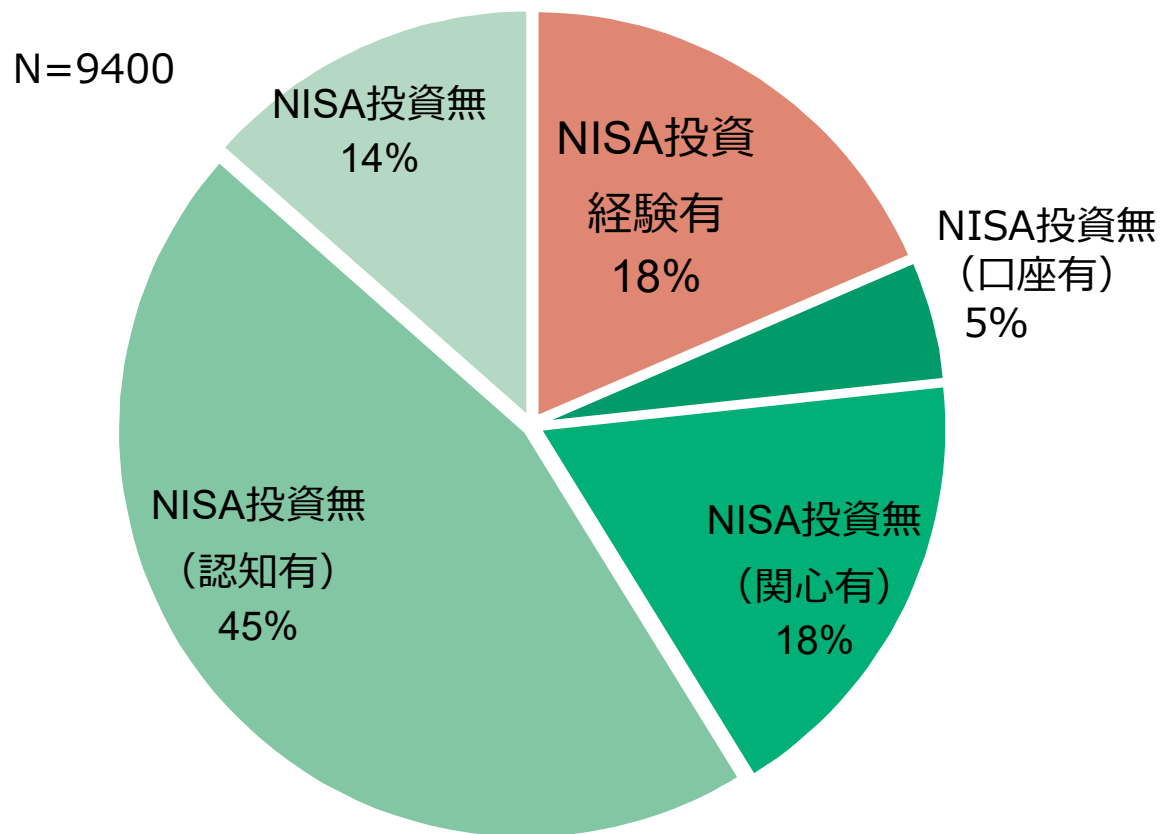
調査結果詳細（抜粋）

NISA利用経験 -SQ3.

現行のNISA制度について、まず投資経験を確認しました。

このNISA投資経験の有無により、投資経験有を「現行NISA利用者」、無を「現行NISA未利用者」としています。

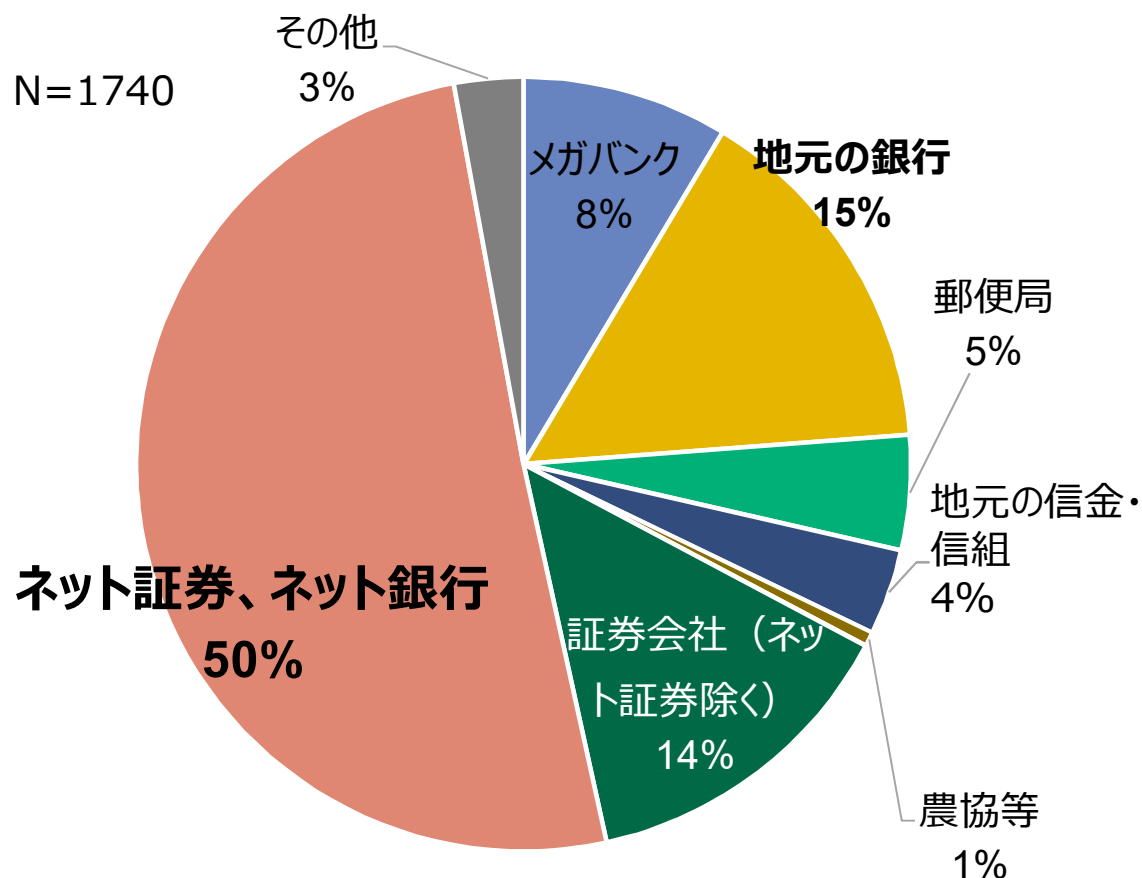
現行のNISA制度の投資経験有は、全国で18%。
エリア別に見ると、関東でのNISA投資経験が高い。



エリア別	NISA投資経験有
北海道	16.0
東北	15.9
関東	20.2
北陸・甲信越	18.1
東海	17.6
近畿	18.7
中国	19.3
四国	18.3
九州・沖縄	16.0

現行NISA利用者に、現状、NISAをどの金融機関で利用しているかを尋ねました。

現行NISA利用者のNISA投資は、ネット証券・銀行と回答が50%を占める。エリア別には、ネット証券・銀行は都市部で優位だが、地方では地元の銀行が一定のシェアを押さえていることが分かる。



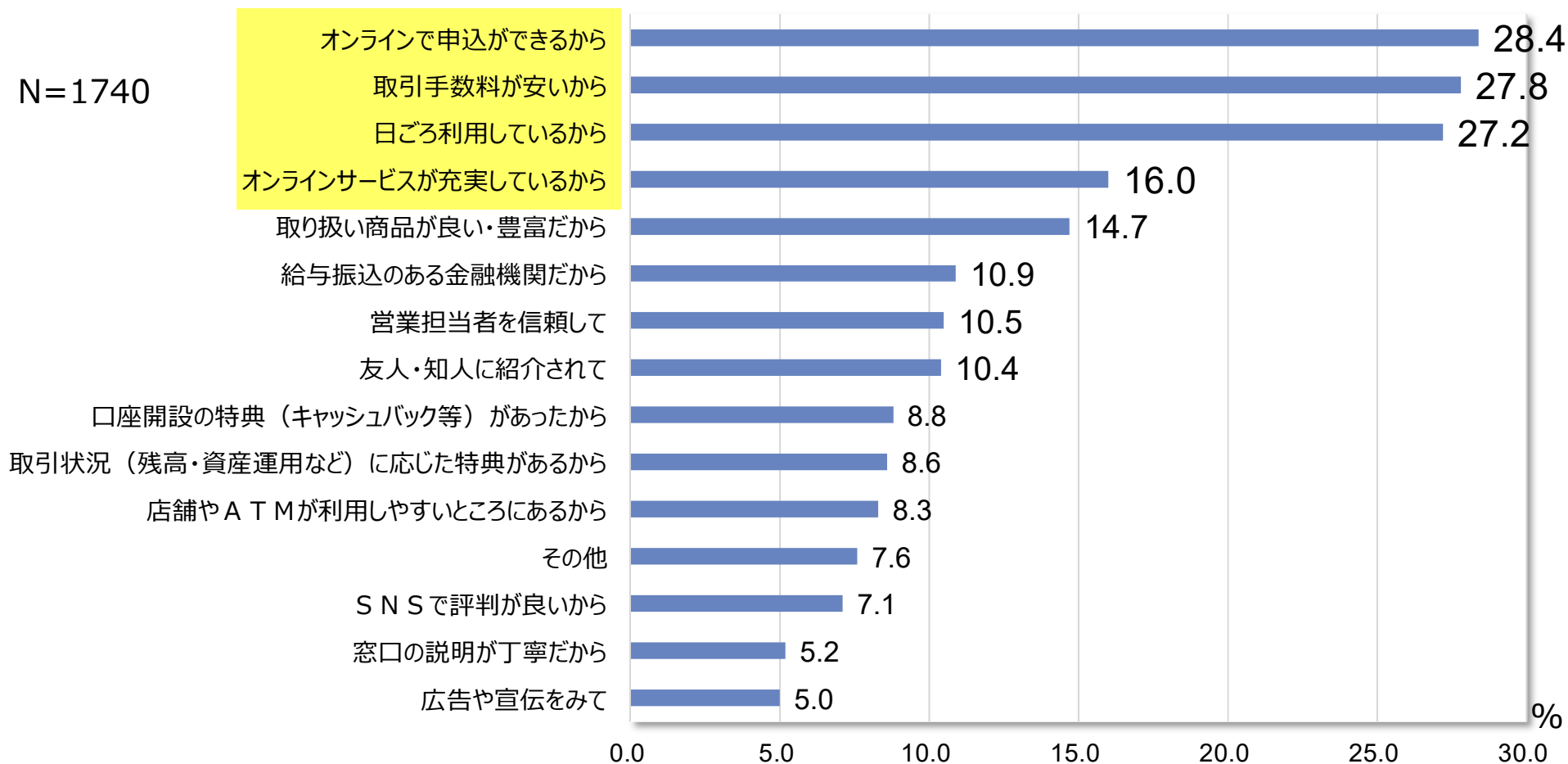
エリア別	地元の銀行	ネット証券・銀行
北海道	22.0	42.0
東北	27.2	43.8
関東	8.9	54.9
北陸・甲信越	20.8	48.4
東海	13.9	47.2
近畿	10.2	54.5
中国	20.0	48.3
四国	29.9	43.9
九州・沖縄	30.8	41.8

NISA利用金融機関の選定理由① - Q2

現行NISA利用者

現行NISA利用者に、前問でNISA利用中とした金融機関の選定理由を尋ねました。

前問でネット証券・銀行の回答が50%を占めたことから、その選定理由も「オンライン申込」28%、「取引手数料が安い」27%、「オンラインサービスが充実」16%と、ネット証券・銀行のメリットがそのまま選定理由の上位を占めた。



NISA利用金融機関の選定理由② -Q2

現行NISA利用者

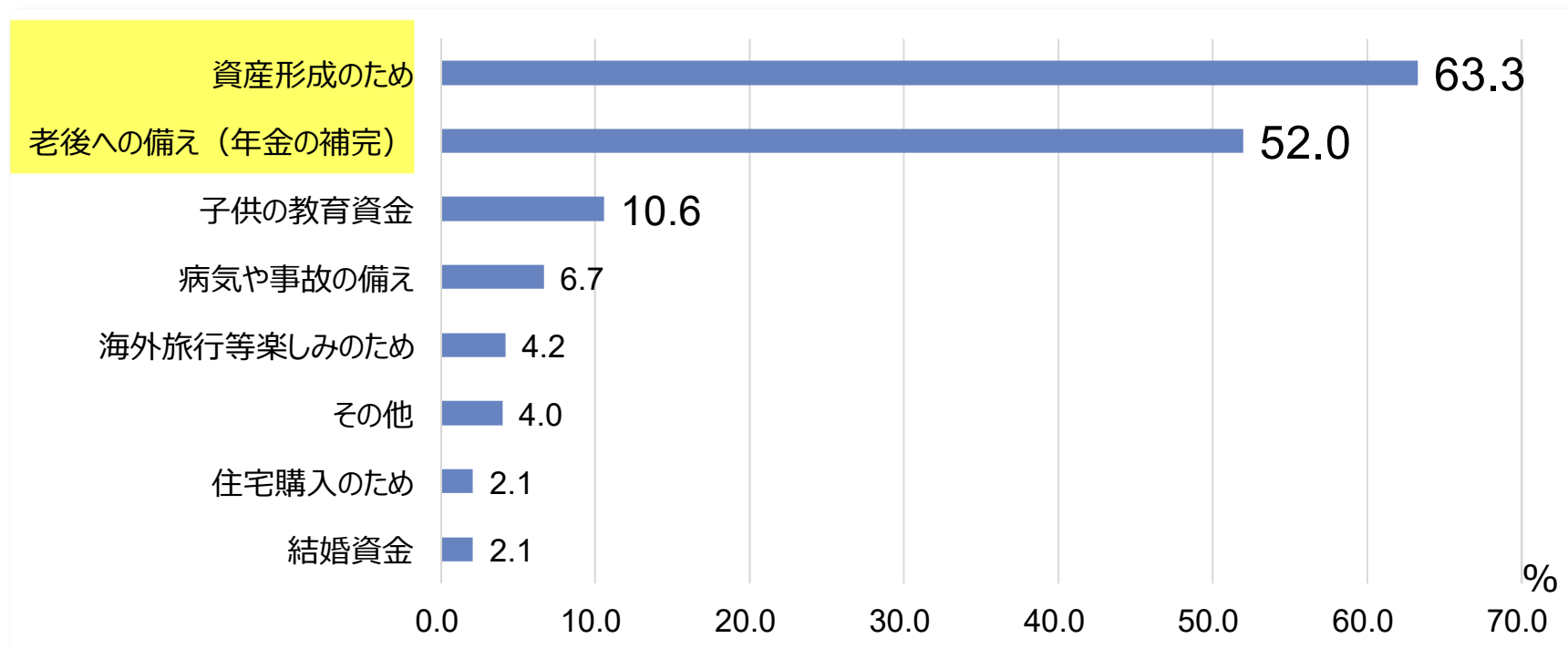
エリア別	オンラインで申込 ができるから	取引手数料が安い から	日ごろ利用してい るから	オンラインサービ スが充実してい るから	取り扱い商品が良 い・豊富だから	給与振込のある金 融機関だから	営業担当者を信頼 して	友人・知人に紹介 されて	口座開設の特典 (キャッシュバッ ク等)があったか ら	取引状況(残高・ 資産運用など)に 応じた特典がある から	店舗やATMが利 用しやすいところ にあるから
全国	28.4	27.8	27.2	16.0	14.7	10.9	10.5	10.4	8.8	8.6	8.3
北海道	24.0	20.0	34.0	8.0	16.0	18.0	14.0	10.0	6.0	12.0	22.0
東北	22.3	19.1	31.0	15.9	10.9	9.0	11.9	7.7	9.3	7.0	11.2
関東	30.9	31.3	26.0	20.8	18.4	10.8	9.3	9.7	10.6	9.7	7.1
北陸・甲信越	23.9	26.1	32.3	15.8	15.3	10.4	14.1	7.8	10.0	7.9	7.5
東海	29.1	22.0	24.1	12.2	10.0	9.6	9.0	12.1	6.5	6.7	6.3
近畿	30.9	31.8	27.0	13.2	12.8	8.6	7.1	12.3	8.0	9.7	6.8
中国	30.1	26.7	28.0	10.5	12.4	12.2	15.4	10.2	8.0	5.5	5.7
四国	20.2	21.9	26.7	11.3	11.3	16.8	20.3	11.8	6.0	6.9	9.7
九州・沖縄	22.7	24.4	27.6	13.6	11.8	13.4	13.4	10.5	6.9	7.4	12.5

NISA投資経験有と回答した人達に、さらにNISA投資の利用目的を尋ねました。

NISA投資の目的は、「資産形成のため」が63%、「老後の備え（年金の補完）」が52%と大半を占めた。

利用目的については、エリア別の差異はほとんど見られなかった。

N=1740

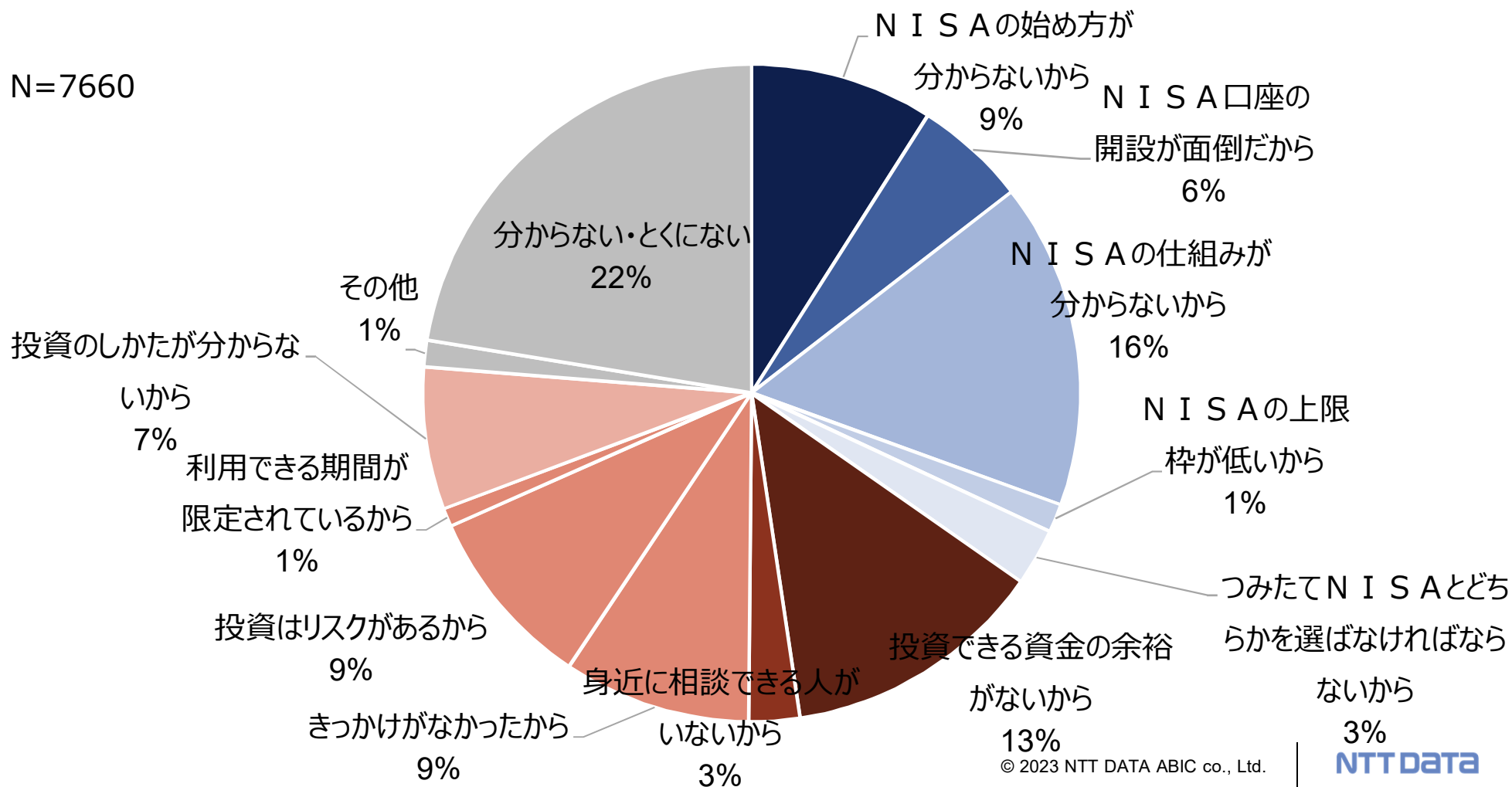


NISA未利用理由 - Q7

現行NISA未利用者

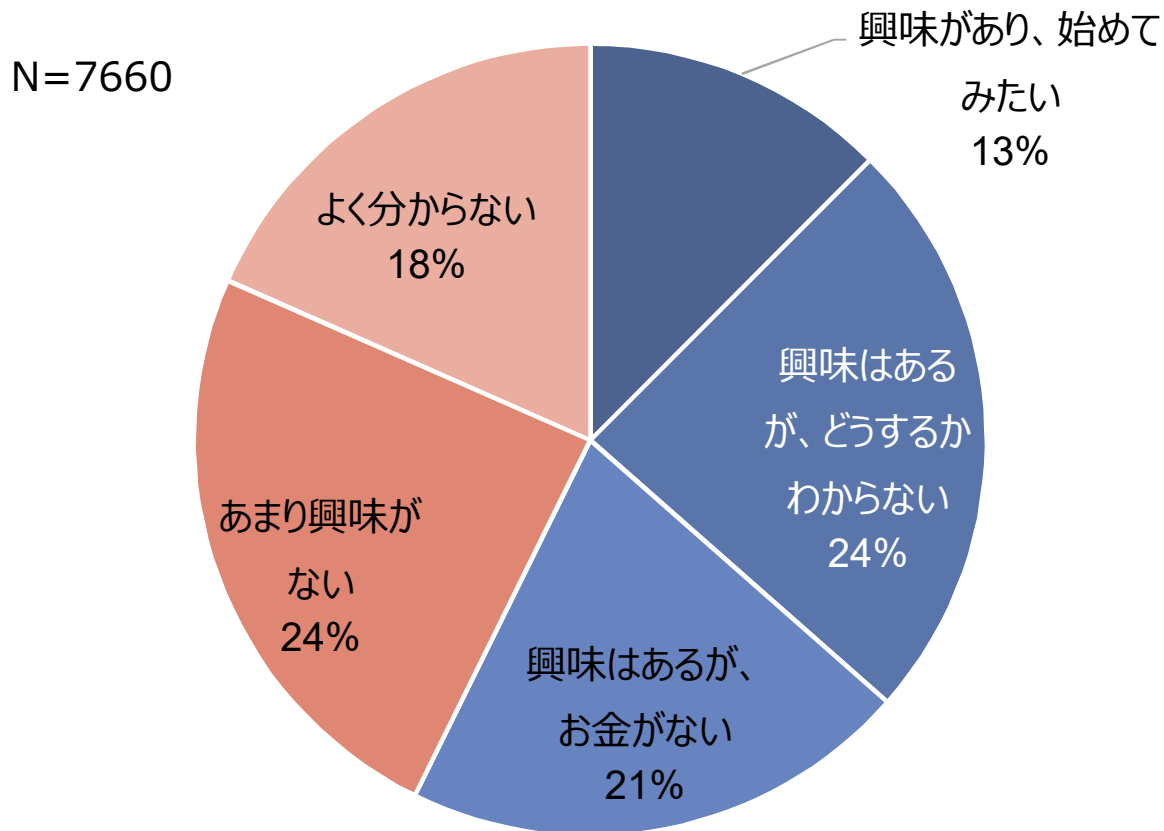
ここからNISA利用経験の質問で未利用と回答した現行NISA未利用者に、NISAをこれまで利用しなかった理由を尋ねました。

現行NISA未利用者のNISA未経験理由は、下のグラフで、青色のNISA制度に関する理由が計34%、一方、赤色のNISA制度以外に関する理由が計41%となった。



現行NISA未利用者に、2024年から始まる新NISAについて、どのような考えを持っているかを聞いてみました。

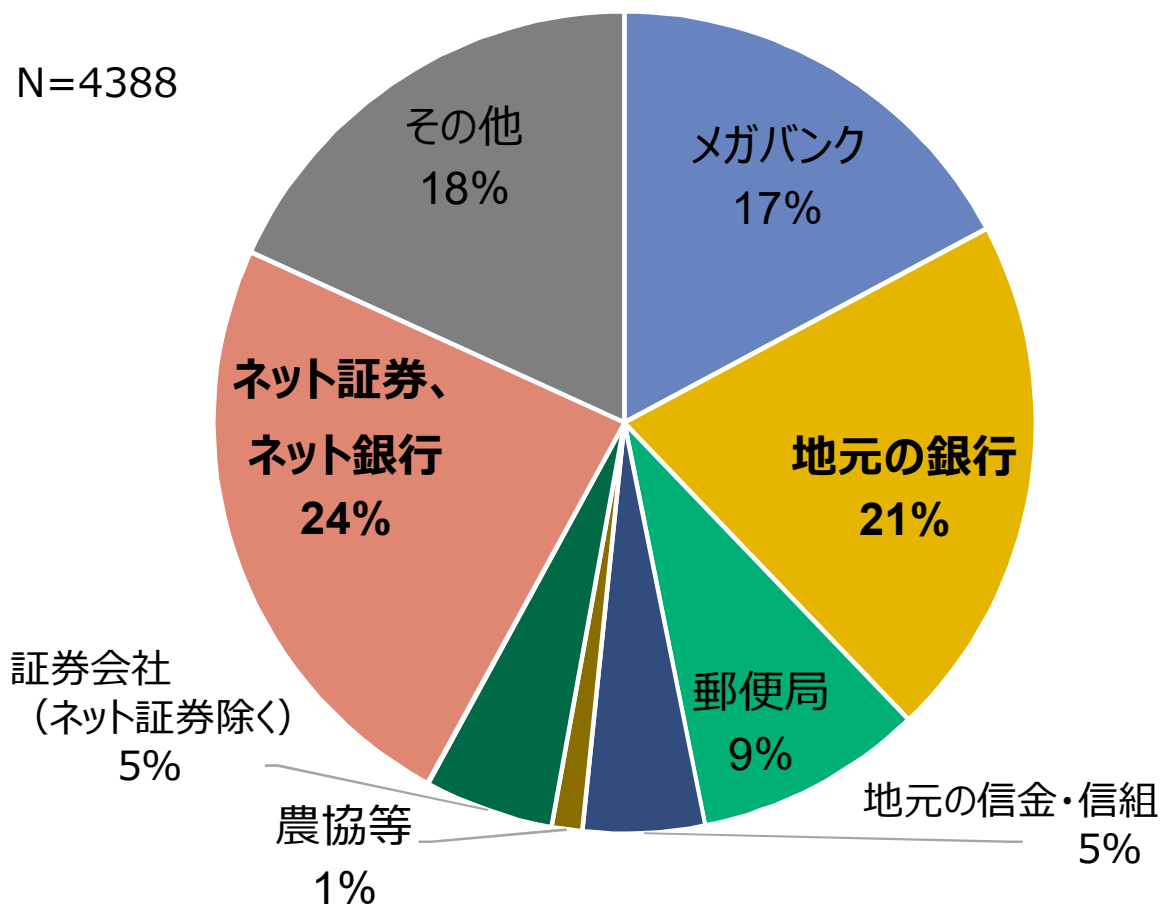
現行NISA未利用者でも、新NISAに「興味があり、始めてみたい」13%、「興味はあるが、未定」24%、「興味はあるが、お金がない」が21%となり、約57%が公表された新NISAに興味を持っている。



エリア別	新NISA興味有
全国	57.3
北海道	54.7
東北	56.3
関東	60.9
北陸・甲信越	53.8
東海	56.4
近畿	54.5
中国	52.0
四国	55.0
九州・沖縄	57.7

現行NISA未利用者に、新NISAを始めるとしたら、どの金融機関を選ぶか尋ねました。

現行NISA利用者ではネット証券・銀行が大半を占めたが、現行NISA未利用者では、ネット証券・銀行が24%と大きく後退し、その分、地元の銀行が21%、メガバンクが17%と挽回している。エリア別に見ても、関東、近畿以外のエリアでは、地元の銀行が高くなっている。



エリア別	地元の銀行	ネット証券・銀行
北海道	28.0	25.6
東北	37.3	21.0
関東	12.1	25.7
北陸・甲信越	34.9	19.1
東海	17.5	23.0
近畿	12.0	23.5
中国	28.7	25.4
四国	31.3	21.6
九州・沖縄	38.0	22.5

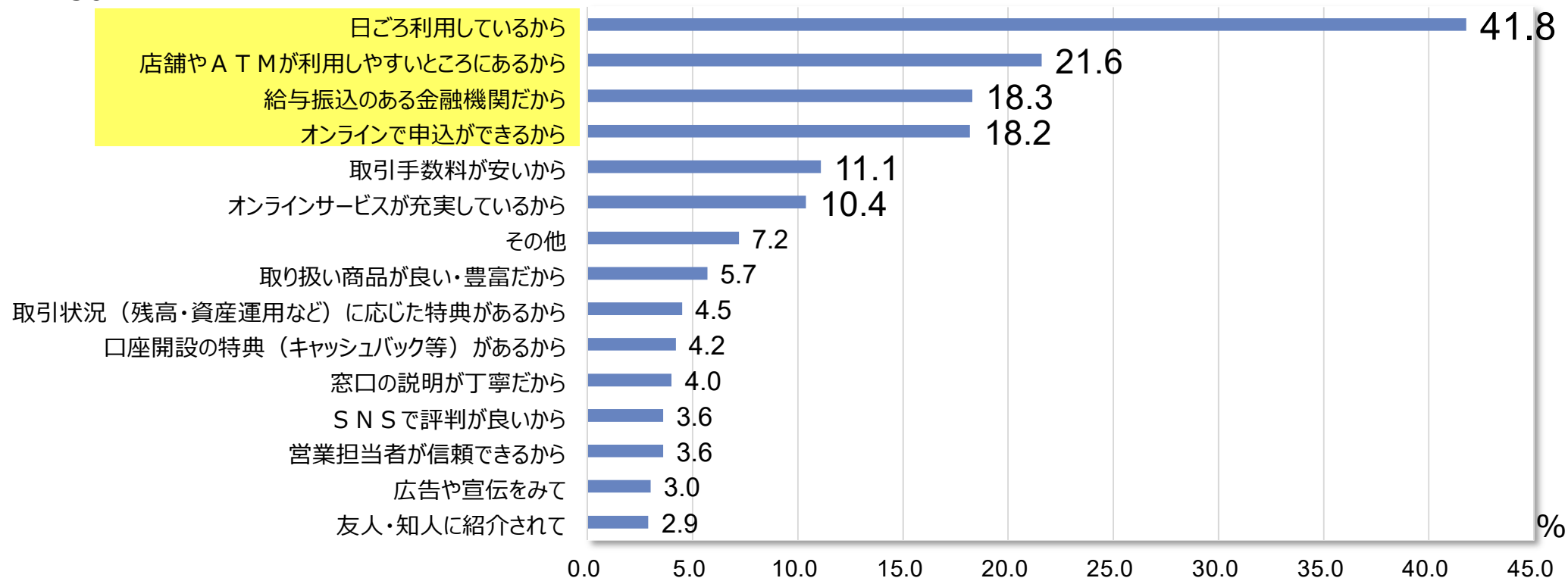
新NISA利用金融機関の選定理由① – Q10

現行NISA未利用者

前問で、現行NISA未利用者が新NISAを始めるとしたら、どの金融機関を選定すると答えた金融機関について、その選定理由を尋ねました。

新NISAの金融機関選定理由で地元の銀行、メガバンク等が伸長した背景として、その選定理由を見ると、「日ごろ利用」41%、「店舗やATMの利便性」21%、「給与振込」18%と金融機関との日ごろの付き合いが大きな選定理由となっている。

N=3621



新NISA利用金融機関の選定理由② -Q10

現行NISA未利用者

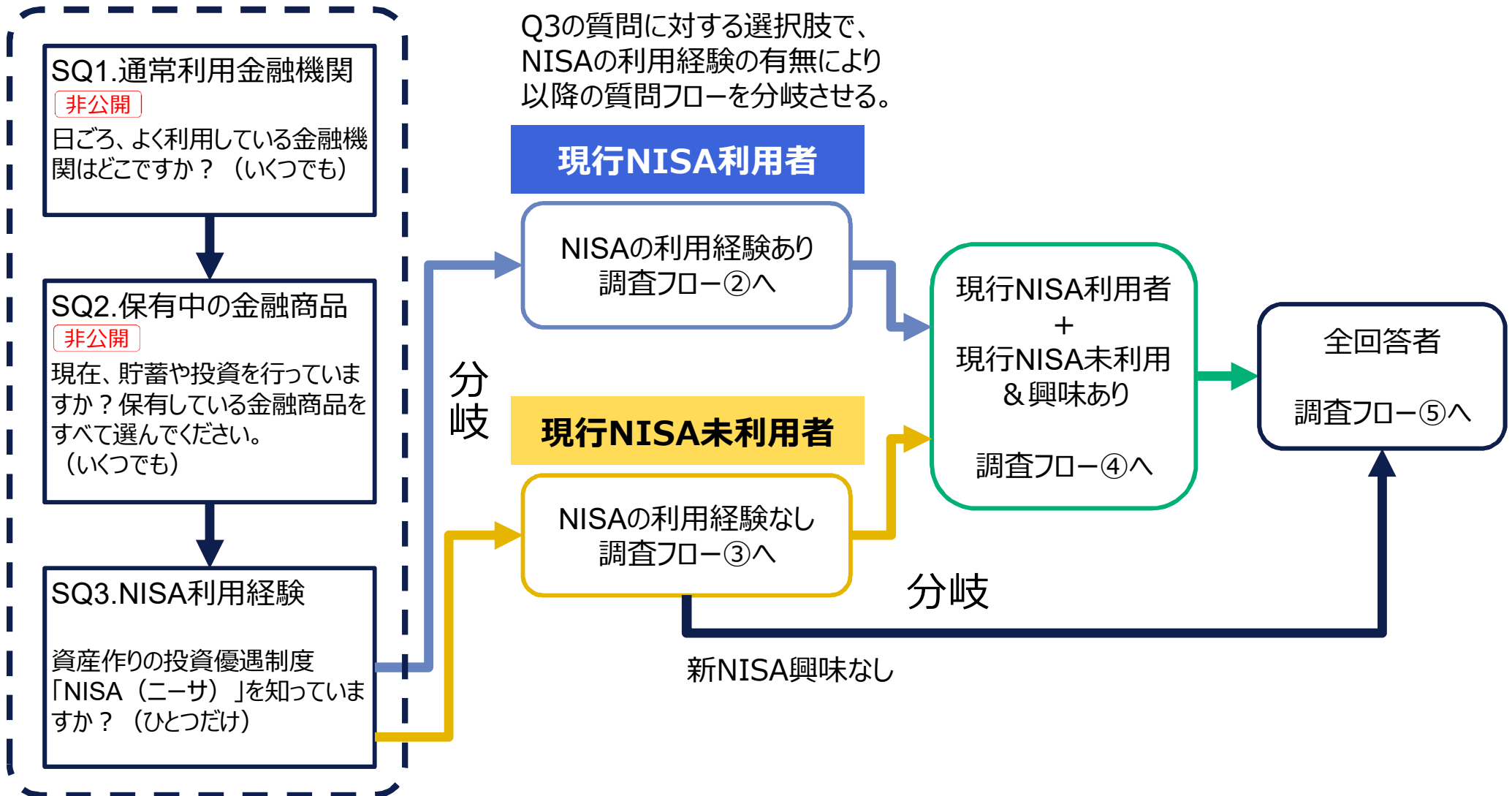
エリア別	日ごろ利用しているから	店舗やATMが利用しやすいところにあるから	給与振込のある金融機関だから	オンラインで申込ができるから	取引手数料が安いから	オンラインサービスが充実しているから
全国	41.8	21.6	18.3	18.2	11.1	10.4
北海道	47.0	21.2	21.2	22.7	4.5	12.1
東北	41.9	24.0	18.6	18.0	9.1	9.6
関東	43.9	20.1	19.6	19.1	12.6	10.4
北陸・甲信越	49.1	23.0	16.4	14.8	11.5	8.2
東海	35.3	22.5	15.5	16.5	8.7	11.1
近畿	36.0	23.1	19.6	19.4	10.5	11.1
中国	43.1	16.7	14.5	16.4	13.7	13.0
四国	40.1	24.2	14.6	18.6	11.0	7.8
九州・沖縄	44.1	22.6	18.0	16.7	12.1	8.9

02

調査質問（全体）

調査項目フロー①

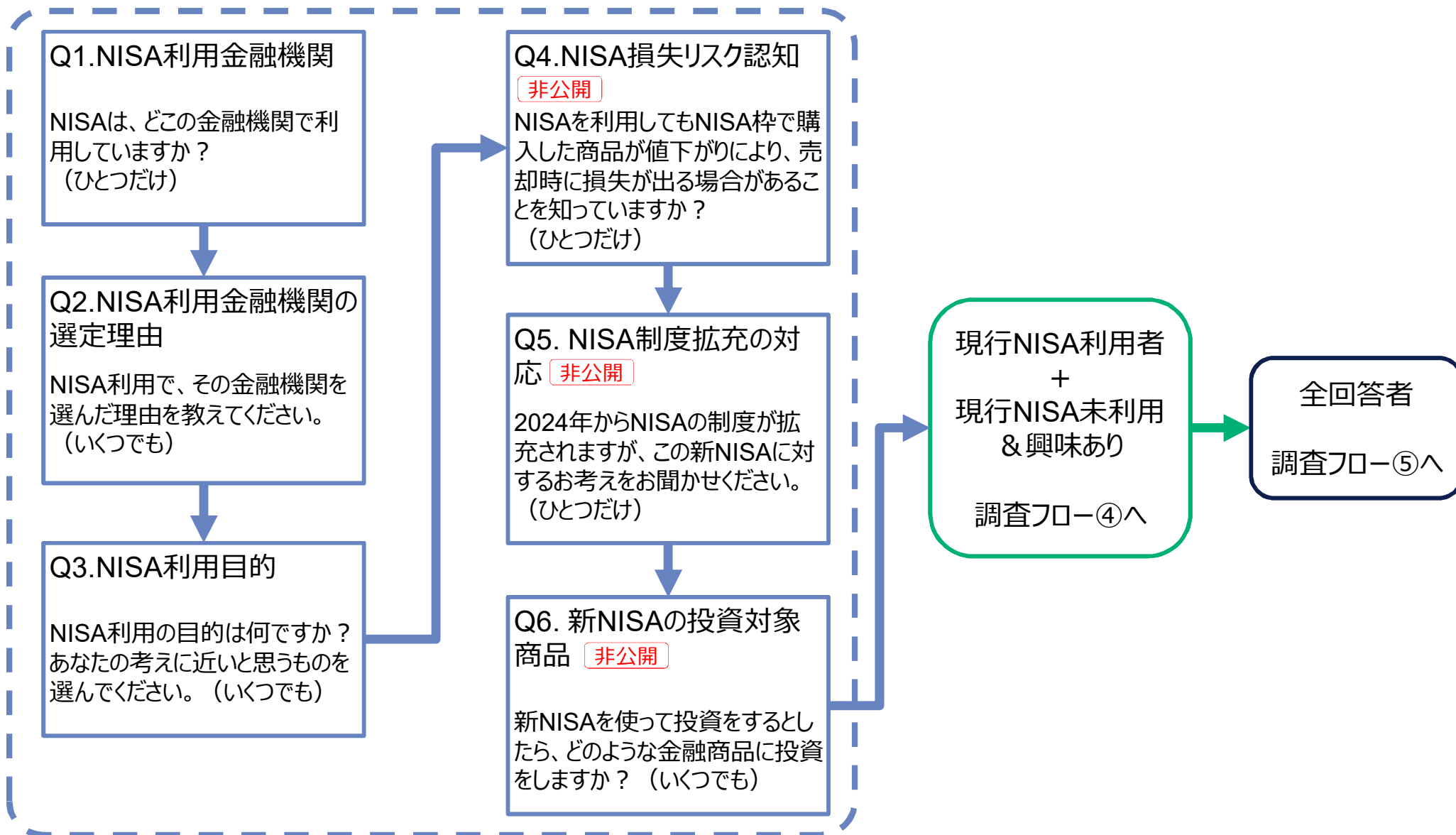
本調査では、当社サービスのユーザーである金融機関にとって有意義な調査となるよう、金融機関でのご利用を意識して、調査票を設計しています。そのため、この調査結果報告では、NISA利用と新NISA意向の焦点を当て、その他の質問については、当社サービスのユーザー向けとし、一般には非公開としております。



調査項目フロー②

現行NISA利用者

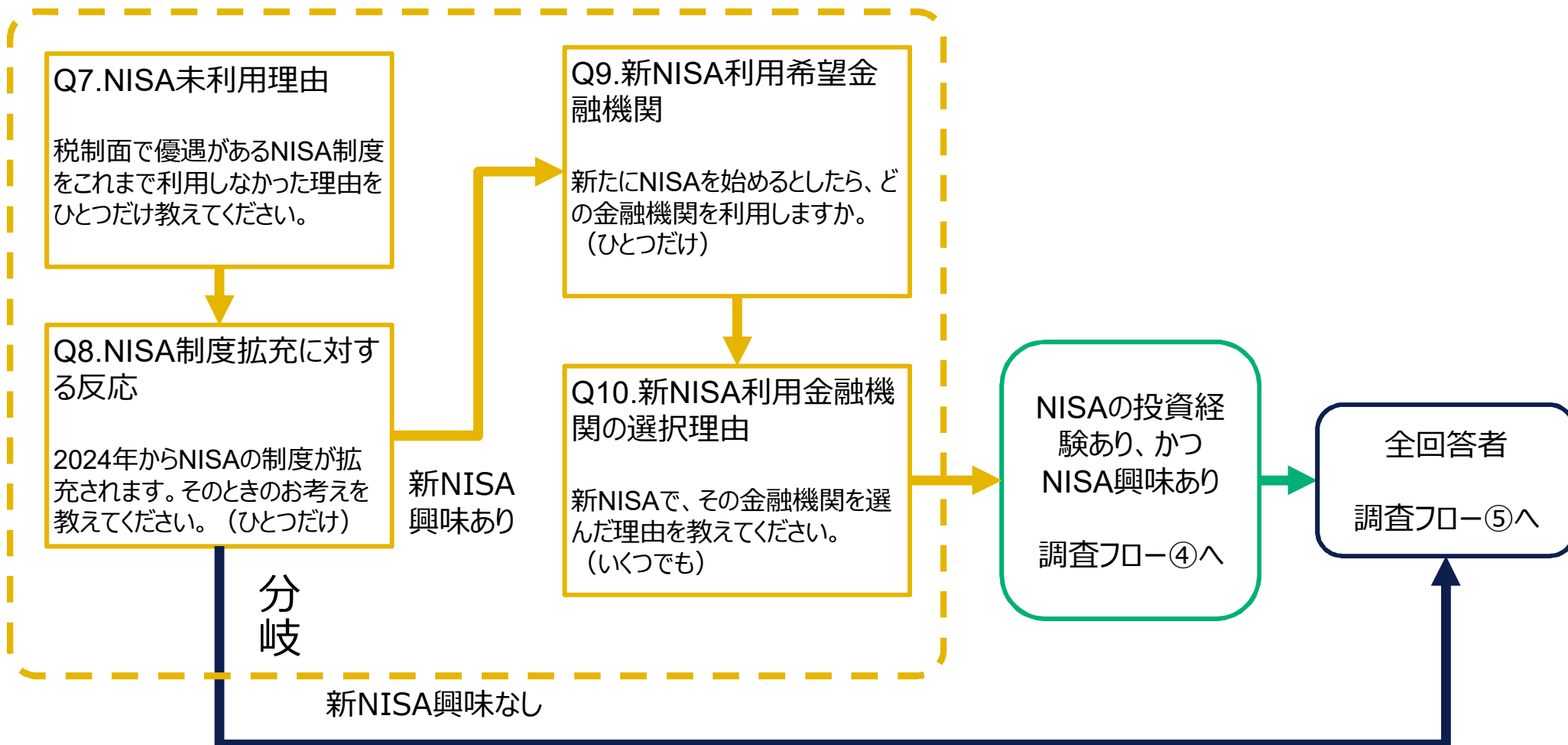
調査項目フロー②では、NISAの利用経験ありの回答者について、新NISA対しての認識と今後の意向を確認することを狙っています。



調査項目フロー③

現行NISA未利用者

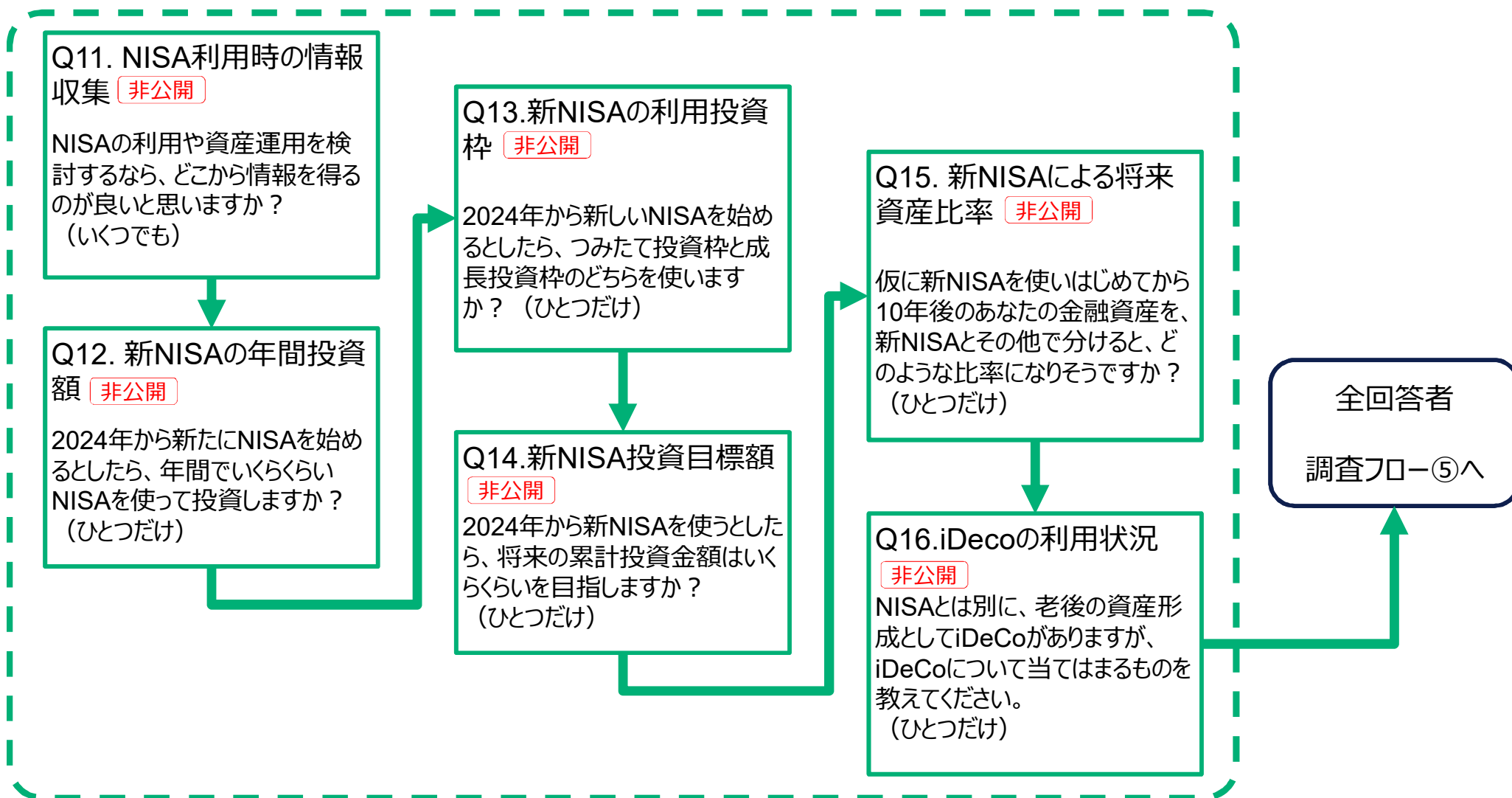
調査項目フロー③では、NISAの利用経験なしの回答者について、新NISA対しての認識と今後の意向を確認することを狙っています（質問番号は調査項目フロー②からの続きとしています）。



調査項目フロー④

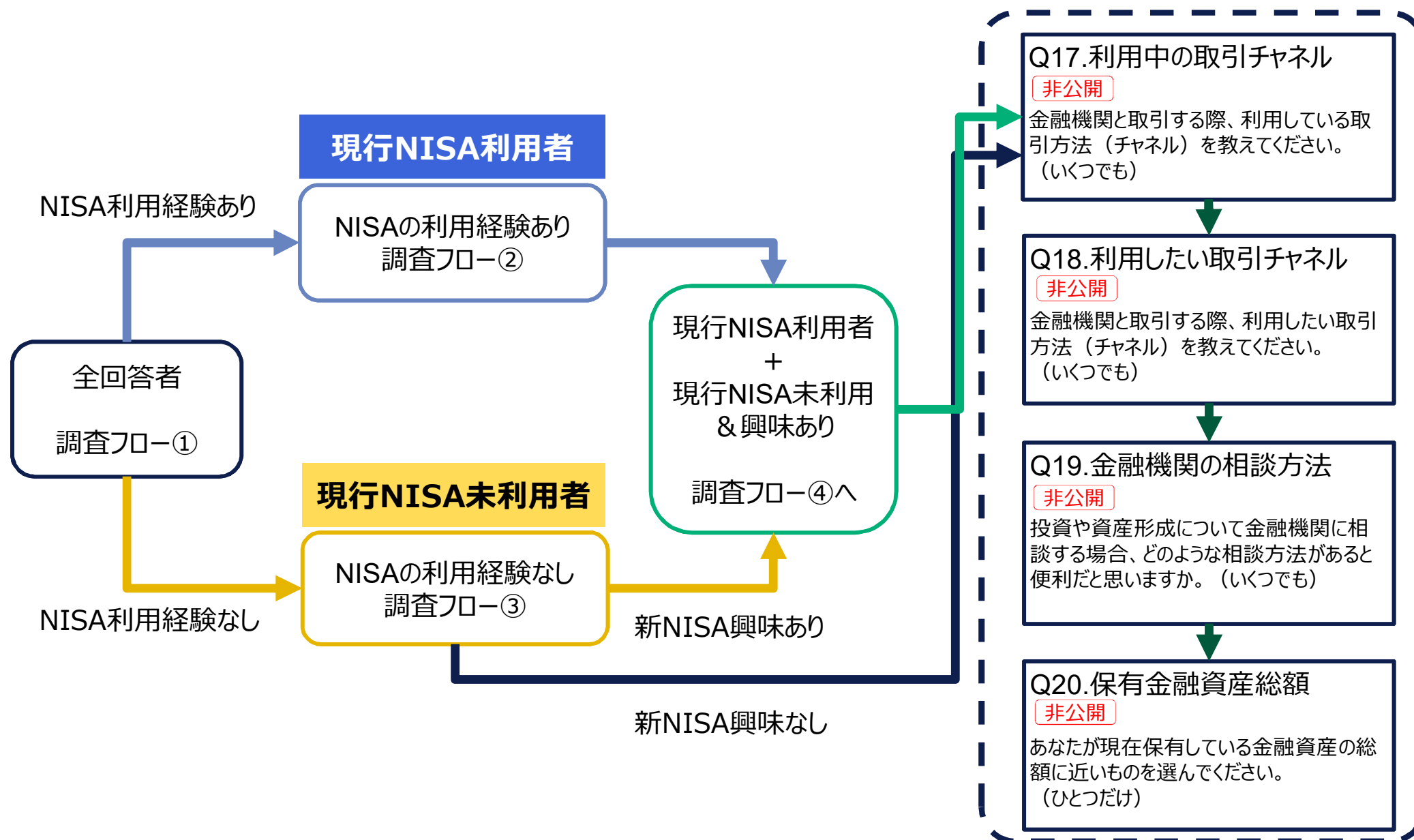
現行NISA利用者+
現行NISA未利用&興味あり

調査項目フロー④では、「NISA利用経験あり」と「NISAの利用経験なしだがNISAに興味あり」の回答者について、資産運用や新NISAについての認識を尋ねています（質問番号はフロー③からの続きとしてます）。



調査項目フロー⑤

最後に全回答者に対して、金融機関の利用チャネルや相談方法、保有金融資産の総額を尋ね、終了となります。





調査結果の利用について

- ・本調査は、株式会社NTTデータエービックが実施し、著作権を保有しています。
- ・調査結果の一部を転載・引用される場合は、出所として「NTTデータエービック」と明記した上で、掲載日・掲載媒体・引用箇所等の情報につきましては、以下のお問い合わせ先までお知らせください。
- ・調査結果について、出所を明記せずに転載・引用を行うこと、データの一部または全部を改変することなどの行為はご遠慮ください。
- ・本アンケート調査の生データは提供いたしかねます。

【本件に関するお問い合わせ先】

株式会社NTTデータエービック

金融サービス推進部 セールスオフィスチーム

電話番号：03-6435-5980（代表）

受付時間 9時00分～17時00分（土・日・祝日を除く）

当社ホームページのお問い合わせフォームをご利用ください

<https://www.nttdata.abic.co.jp/>

Appendix

LINEリサーチのサービス紹介

LINEリサーチとは？

LINEプラットフォーム上でアンケート会員を抱えており、アンケートの配信と回収がLINE上で可能

LINEリサーチのアンケート会員

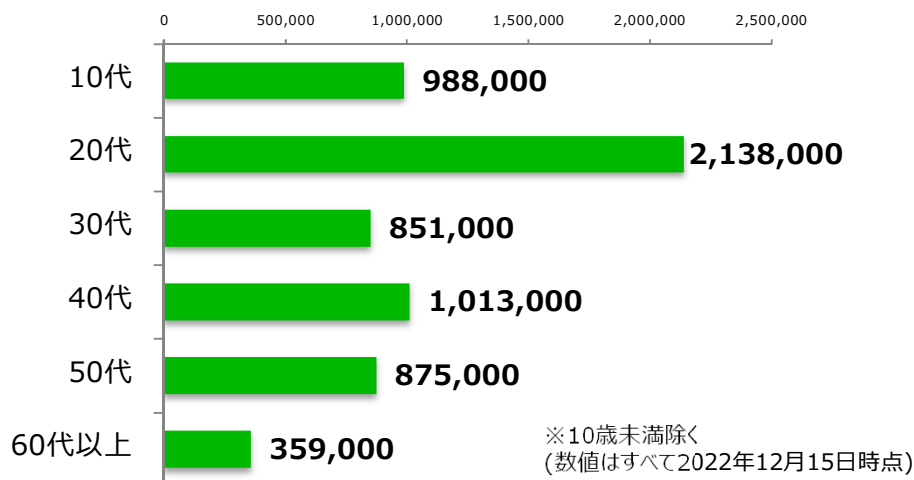


アンケート会員登録者数

約626万人

※「LINEアンケート」というLINE OAの友だちとなり、かつ属性情報の登録を完了した人の数
※属性情報：性別、年齢、居住地、職業、婚姻状況、LINE利用機器、任意で子供の有無

年代別モニター数



Point

1

若年層を中心とした圧倒的な回収力

日本最大級のスマートフォン専門のアンケート会員数を保有
アンケート会員全体の半数以上が10代20代にて構成
国内において若年層への回収数は圧倒的に強みあり

Point

2

バイアスのないデータを提供

アンケート会員の半数以上が他のアンケート会員の登録をしていない
回答負荷が高いアンケートは、負荷がかからないよう修正して実施
※マトリクス設問の分解、自由回答設問の上限数の設置、最大30問までなど

Point

3

LINEプラットフォームだからできる

LINE広告への拡張配信に調査結果の活用が可能
LINE広告、LINE OA、位置情報などのログ情報の活用が可能
OPEN型アンケートシステムの活用によりOA友だちのUID納品も可能

※LINE OAとは、LINE公式アカウント

LINEリサーチのアンケート回収力

LINEリサーチのアンケート会員は、全国広く登録者数を抱えており、地方在住の人も多く集まるのが特徴となります。

※政令指定都市の一部にて実際に回収できた大体の人数（会員登録人数とは異なります）

札幌市
(人口：約196万人)

約14,000人

仙台市
(人口：約106万人)

約6,800人

新潟市
(人口：約78万人)

約4,100人

静岡市
(人口：約69万人)

約3,500人

岡山市
(人口：約71万人)

約4,000人

広島市
(人口：約119万人)

約6,400人

北九州市
(人口：約94万人)

約1,100人

熊本市
(人口：約73万人)

約800人

記載の人口は、2021年（令和3年）住民基本台帳に基づく

LINEリサーチで行う価値

各地方銀行様がサービス展開するエリアに在住する人へのアンケートもLINEリサーチでは可能

LINEリサーチのアンケート会員は、他のアンケート会員と比較して、「**首都圏への偏りが少ない**」という特徴もあり、首都圏以外の地方都市へのアンケートに向いていると考えます（回収数に期待が持てる）

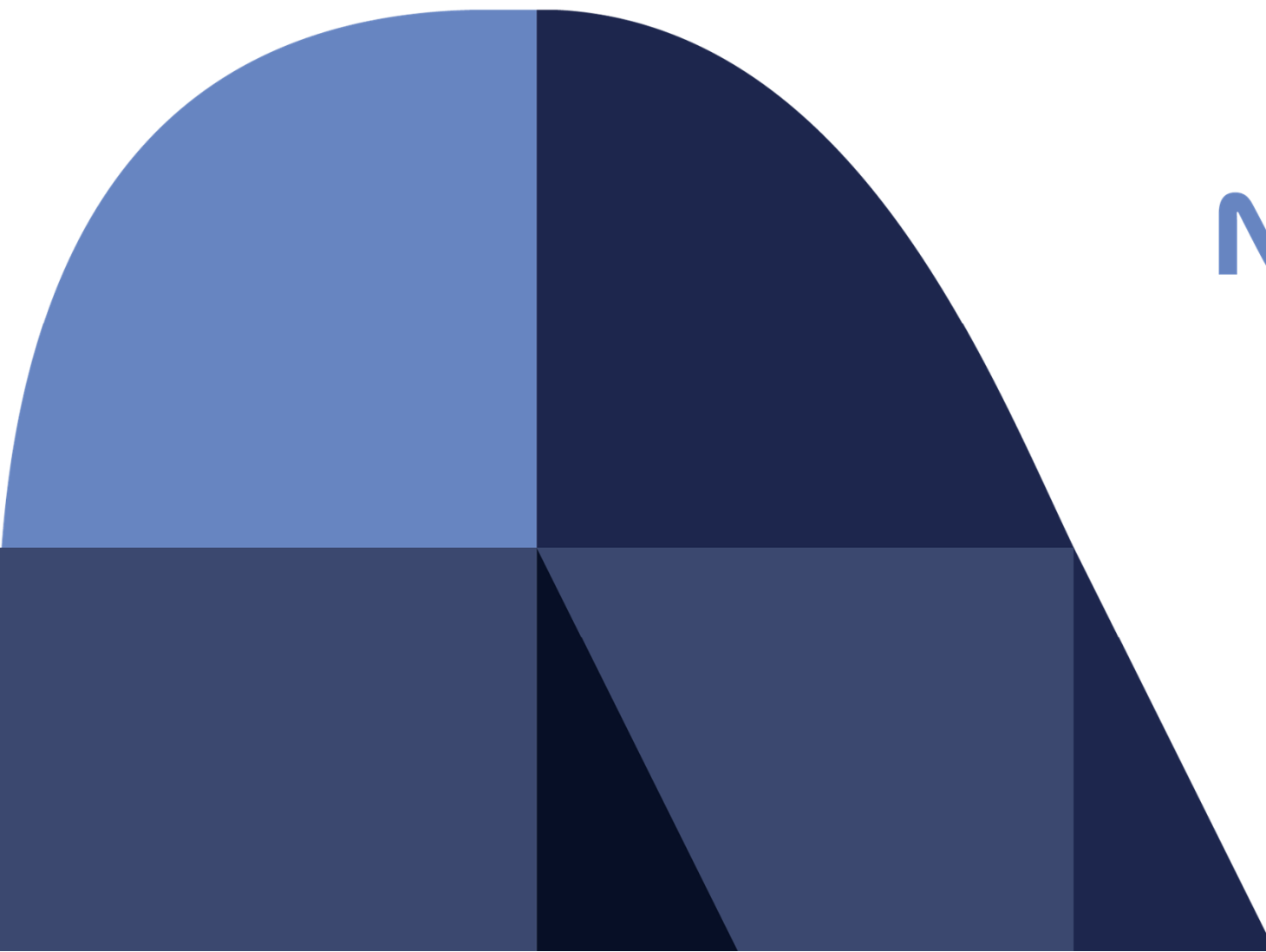
LINEリサーチと他のリサーチ会社（インターネットリサーチ）のアンケート会員に対し、同じ時期同じ内容にて比較調査を行った結果で、在住している都道府県の分布は以下のようになっております。

	人口(万人)	人口分布	LINEリサーチ結果	他リサーチ会社結果	差
関東（東京・神奈川・埼玉・千葉）	369	29.3%	31.5%	38.4%	6.9%

比較調査：22年12月全国男女16-69歳それぞれ合計1200人程度の結果

理由の詳細までは不明ではありますが、他のリサーチの会員の登録者ならびに回答者の割合として、首都圏に多いという特徴がございます。

LINEリサーチのアンケート会員は全国幅広く登録を頂いており、構成としても人口分布に近い割合となっております。



NTT DATA

Trusted Global Innovator